

2023年度の学会賞審査結果について、以下のとおりご報告いたします。

2023年度学会賞審査結果

	山村記念賞	青洲賞	松木賞	若手奨励賞 (臨床研究)	若手奨励賞 (基礎研究)	社会賞
業績名	脳画像解析を用いた神経plasticity研究	より安全な全身麻酔管理を目指す筋弛緩薬使用方法の臨床研究	応募者なし	Combination therapy of high-flow nasal cannula and upper body	ヒトにおけるウィンドアップ現象を観察し定量化する低侵襲な方法	受賞者なし
氏名	荻野 祐一	磯野 史朗		坂口 雄一	谷口 智哉	
所属	群馬大学医学部附属病院	千葉大学大学院医学研究院		千葉大学医学部附属病院	名古屋大学大学院医学系	
講評	申請者は、慢性痛を有する症例において、実際に脳画像解析上計測された脳容積に変化が生ずることを示し、また生活上で生ずる普遍的な事象によっても脳に変化が生ずることを示した。従来の脳科学研究を臨床、特に疼痛等と関連付けることにより麻酔科領域で新たな一分野を開拓した点で有意義である。	全身麻酔に伴う気道の生理的変化や筋弛緩薬の効果について、系統的な研究を行っている。特に筋弛緩については、気管挿管への影響のみならず気道や換気の変化についても検討されている。申請者は、当該領域で長期にわたって継続して業績を上げるとともに、研究内容は麻酔科の臨床に直結する重要なもので、今後の臨床に大いに資すると思われる。		申請者らは、十分に計画されたプロトコールに基づき、睡眠時無呼吸を有する患者に対する術後頭高位、高流量鼻カニューラ療法が無呼吸の防止に有効で、両者の併用により無呼吸の頻度がさらに減少することを示した。麻酔科の臨床研究として、その目的と手法、結果が有意義であると考えられる。	痛みを増幅する機序の一つであるwind up現象を検討した研究で、斬新なアイデアで定量化する低侵襲な測定方法を確立した。wind-up現象の客観的指標としての有用性が期待され、痛みの評価、治療効果判定といった臨床領域での応用など、将来的な発展性を有することが高く評価された。	

※受賞予定者は (1) 2023年度の定時社員総会開催時の授賞式に出席 (代理人でも可) と (2) 第70回年次学術集会にて授賞記念講演を以て受賞とみなします。

詳細は受賞予定者へ個別にご連絡いたします。